



進行する左眼の下方偏位で発症，当院眼科受診しCTで左眼窩内に腫瘍性病変が認められたため当科紹介，平成15年8月28日，入院となった。左眼下方偏位，左眼上転障害による複視の症状が認められた。MRIでは，左眼窩上外側，筋円錐外に，T1WIで等信号，T2WIで不均一な低～高信号を呈し，Gd造影にてほぼ均一に増強される，長径約25mmの比較的境界明瞭な腫瘍が認められた。また，左眼球，左上直筋，左上眼瞼挙筋の尾側への圧排，眼窩上壁の骨皮質のerosionの所見が認められた。血管撮影では，腫瘍栄養血管ははっきりと同定できなかったが，わずかな腫瘍陰影像が認められた。9月16日，経頭蓋到達法（左前頭開頭）による摘出術施行，腫瘍は，弾性硬で，境界は明瞭，眼窩骨膜外から眼窩骨膜内に連続し，筋円錐外に存在しており，可及的に全摘出を行った。術後，左眼下方偏位，左眼上転障害，複視は消失，新しい神経脱落症状の出現なく自宅退院となった。病理所見は，間質に膠原繊維の沈着を伴う，異型の目立たないN/C比の低い小型の線維芽細胞の充実性増殖が主体の組織像で，solitary fibrous tumorが考えられたが，その場合陽性となるCD34免疫染色は陰性，一方，一部の細胞には平滑筋アクチンが陽性の所見が認められ，腫瘍細胞がmyofibroblastの性格を有することが示唆され，筋線維性腫瘍の可能性が考えられた。以上の症例について文献的考察を加えて報告する。

#### 47 前頭洞から発生し，前頭骨に浸潤した悪性リンパ腫の1例

津田 宏重・竹林 誠治・石崎 賢一  
宮野 真・中井 啓文・程塚 明  
橋詰 清隆・田中 達也・高野 勝信\*  
旭川医科大学脳神経外科  
ふらの西病院脳神経外科\*

【はじめに】前頭洞より発生する悪性リンパ腫はまれな疾患で鼻粘膜から発生する悪性リンパ腫の中でも1～2%と報告されている。今回前頭洞から発生し，篩骨，前頭骨に浸潤した1症例を報告する。

症例は78才女性。進行する前額部の腫瘍を主訴に近医を受診。頭部CT，MRIで頭蓋骨腫瘍を疑い当院に治療目的で紹介。頭部CTで等吸収域の造影されない腫瘍性病変を前頭骨，前頭洞，篩骨洞に認めた。前頭洞，篩骨洞，前頭骨は骨融解を伴い，前額部の皮下にまで突出していた。MRIではT1，T2ともに等信号域で造影されなかった。硬膜内には浸潤は認めなかった。骨腫瘍，転移性骨腫瘍を疑い両側前頭開頭にて手術を施行した。腫瘍は弾性硬で皮膚からの栄養血管に富んでいた。腫瘍は前頭洞，篩骨洞まで及んでおり，同部の粘膜ごと腫瘍を摘出した。病理所見で悪性リンパ腫の診断となり，術後放射線治療を施行した。

【結論】前頭洞より発生し，頭蓋骨まで浸潤した悪性リンパ腫の一例を若干の文献考察を加えて報告する。

#### 48 ProMACE-MOPP Hybrid 新潟大学変法による脳原発悪性リンパ腫(PCNSL)の治療成績

山中 龍也・森井 研・高橋 英明  
恩田 清・田中 隆一

新潟大学脳研究所脳神経外科

【目的】ProMACE-MOPP変法によるPCNSLの治療成績と治療関連合併症につき検討した。

【症例と方法】1996年から32例のPCNSLがこのregimenで治療された。年齢は34～73，平均61.3歳。平均KPSは71.5。pirarubicin 25 mg/m<sup>2</sup>，CPA 650 mg/m<sup>2</sup>，VP-16 120 mg/m<sup>2</sup>，VCR 1.4 mg/m<sup>2</sup>，PCZ 100 mg/m<sup>2</sup>，methotrexate (MTX) 500 mg/m<sup>2</sup>を3週間で1サイクル行い，3サイクル後に20Gyの全脳照射を行い，その後3か月毎2年間計7サイクルの化学療法を行った。副作用はNCI-CTCで評価した。晩期神経障害は発症後2年後の画像grading scaleと神経心理学テストで評価した。

【結果】1) 全体の5年生存率は56%，5年無病生存率は31%，平均生存期間は68ヶ月であった。2) 治療関連の急性期副作用としてGrade3/4の白血球減少を33%に認めたが，G-CSF投与で